※当資料についての注意事項は巻末をご覧ください。

目次

第1章　優待取り

◇ 株主優待とは・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P3

◇ 優待取りってなに？・・・・・・・・・・・・・・・・・ P5

◇ ツナギ売りとは？・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P6

◇ 実際にやってみよう！・・・・・・・・・・・・・・・・ P8

◇ ツナギ売りにかかるコスト・・・・・・・・・・・・・・ P13

第2章　信用取引の基礎知識

◇ ツナギ売りの注意点・・・・・・・・・・・・・・・・・ P15

◇ 逆日歩ってなに？・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P16

◇ 一般信用「売」の在庫・・・・・・・・・・・・・・・・ P17

◇ 在庫を確認するには？・・・・・・・・・・・・・・・・ P18

◇ 一般信用の長期・売短・・・・・・・・・・・・・・・・ P19

◇ 信用取引にかかるコスト・・・・・・・・・・・・・・・ P20

第3章　当社の画面で確認！

◇ 品渡をするには？・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P21

◇ 株主優待の調べ方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P22

◇ ご注意・ご案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P23

第1章 優待取り 「株主優待とは」

企業が投資家への株主還元のひとつとして、特色豊かな商品やサービスを株主にプレゼントする制度です。
株主優待は主に個人投資家向けに導入されるもので、株価の「値上がり益」や「配当金」のほかに株式投資の大きな魅力の一つでもあります。

食料品・小売業を中心に、ライフスタイルに合わせた様々な優待を受け取ることができます。

第1章 優待取り 「株主優待とは」

優子さん

お米にビール・・・
エステの優待券も！
そんなにどうしたの？

株主優待で
もらったの。

初子さん

株主優待ってよく耳にするけど、
株って損したり、リスクが多く難しそう。
優待もたくさん株を持ってないともらえないんでしょ。

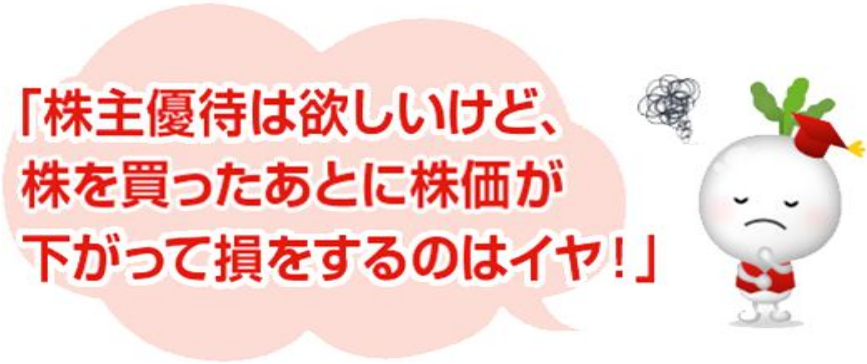
そんなことないのよ、
優待取りってうまくやればリスクもないし、意外と簡単なの。
それに10万円からでももらえる 優待もあるのよ！

株の売買なんて難しいから
と避けてたけれど、
本当に初心者の私でも
できるのかしら・・・

こんにちは、カブスケです。

株の売買というと、とても難しいイメージですが、
優待取りはコツさえつかめばとっても簡単です。
みなさんも様々な優待で楽しく株取引をしませんか？

第1章 優待取り 「優待取りってなに？」



株主優待の権利を受け取るには、
その銘柄の**権利付最終日**に株式を保有していなければなりません。

人気の優待銘柄は、優待目当てに株式を買付する投資家が多い傾向にあります。そのため、権利付最終日に向かって株価が上昇しやすく、翌営業日の権利落ち日以降に株を売却する投資家が多い傾向にあります。

そんな株価の価格変動の心配をせずに株主優待のみを狙いたいお客さまに、
「一般信用売と現物買いを組み合わせた
“ツナギ売り”のテクニック」をご紹介します。

第1章 優待取り 「ツナギ売りとは？」

現物株式と同一銘柄を信用取引で売建てすることを、
「つなぎ売り」といいます。

保有する現物株式を売りたくない場合に、保有株式の値下がりに備えるための手段としても使われることから、「保険つなぎ」とも呼ばれます。

ツナギ売りについては
なんとなくはわかったけれど
優待を取るためには**いつ、何をすれば**いいの？

ツナギ売りを実践する前に、
まずは**おおまかな流れ**をつかみましょう。
優待取り**カレンダー**を見てみましょう。
優待取りの前提のルールが見えてきます。

第1章 優待取り 「ツナギ売りとは？」

信用取引って難しそうだし、やっぱりちょっと不安。
本当に信用と現物を同時に取引するなんて本当に私にもできるの？

ツナギ売りはルールやコストを正しく理解すればこわくありません。

優待取りは　わずか　4STEP！！

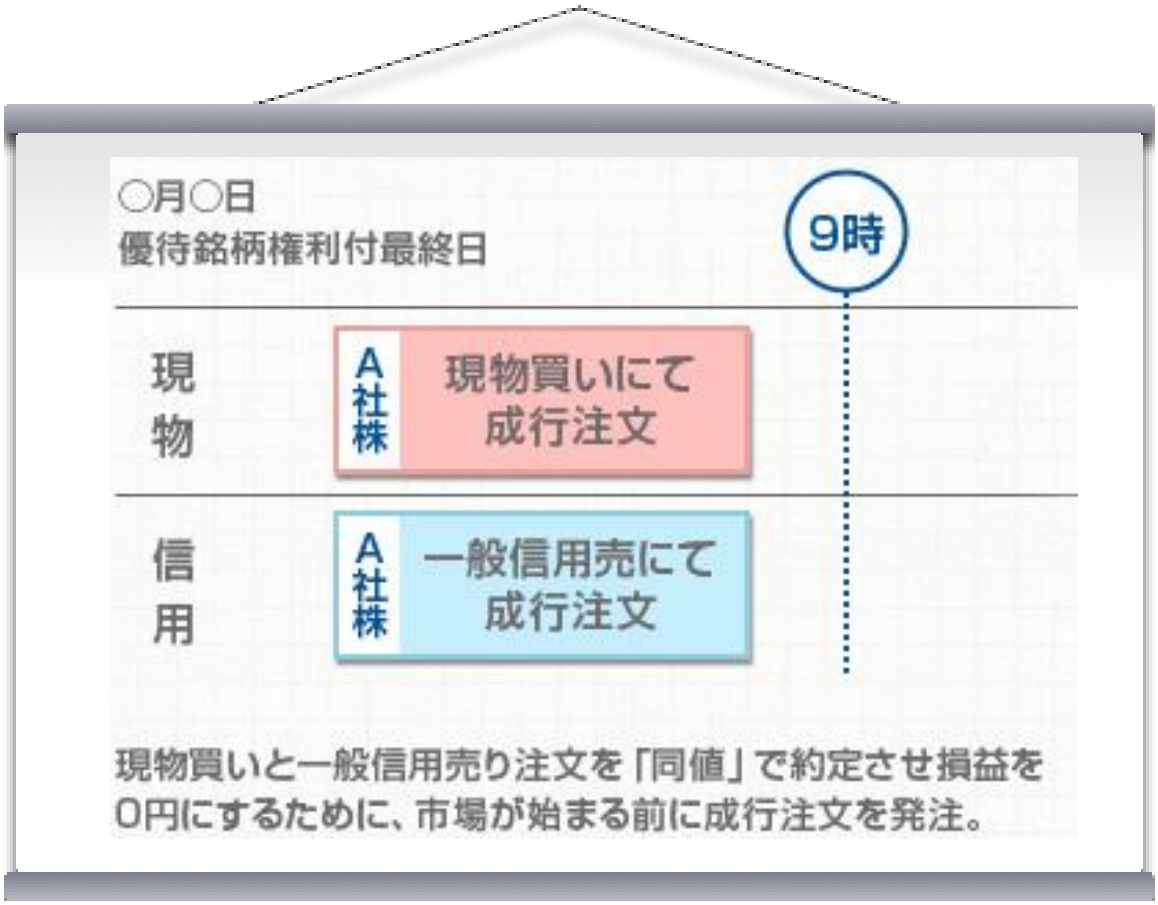
初子さん、いよいよ実践です！！

※月末の最終営業日が権利確定日の場合は、その3営業日前が権利付最終日となります。
※権利付最終日の取引終了時点で株式を保有している場合、株主優待を取得することができます。
※一般信用（長期・売短）売建可能銘柄は日々、銘柄及び株数に変更がございます。最新の銘柄情報は一般信用（長期・売短）売建可能銘柄一覧をご参照ください。
※一般信用（売短®）の返済期日は、新規建玉の建日から起算して14日目の前営業日となります。当社返済期日までにお客さまが信用建玉を手仕舞われなかった場合には、その建玉については当社の任意によりお客さまの計算で反対売買による差金決済もしくは現物決済（品受・品渡）による方法にて手仕舞いさせていただきますので、あらかじめご了承ください。
※返済期日の日数は休業日も数えます。特に、返済期日または、返済期日および返済期日の翌日が休業日に該当する場合は繰り上げとなりますのでご注意ください。

第1章 優待取り「実際にやってみよう！（STEP1）」

STEP1　STEP2　STEP3　STEP4

A 社株（株主優待銘柄）の権利付最終日の寄付き前
現物買い発注と一般信用売り注文を
「成行」で注文します。

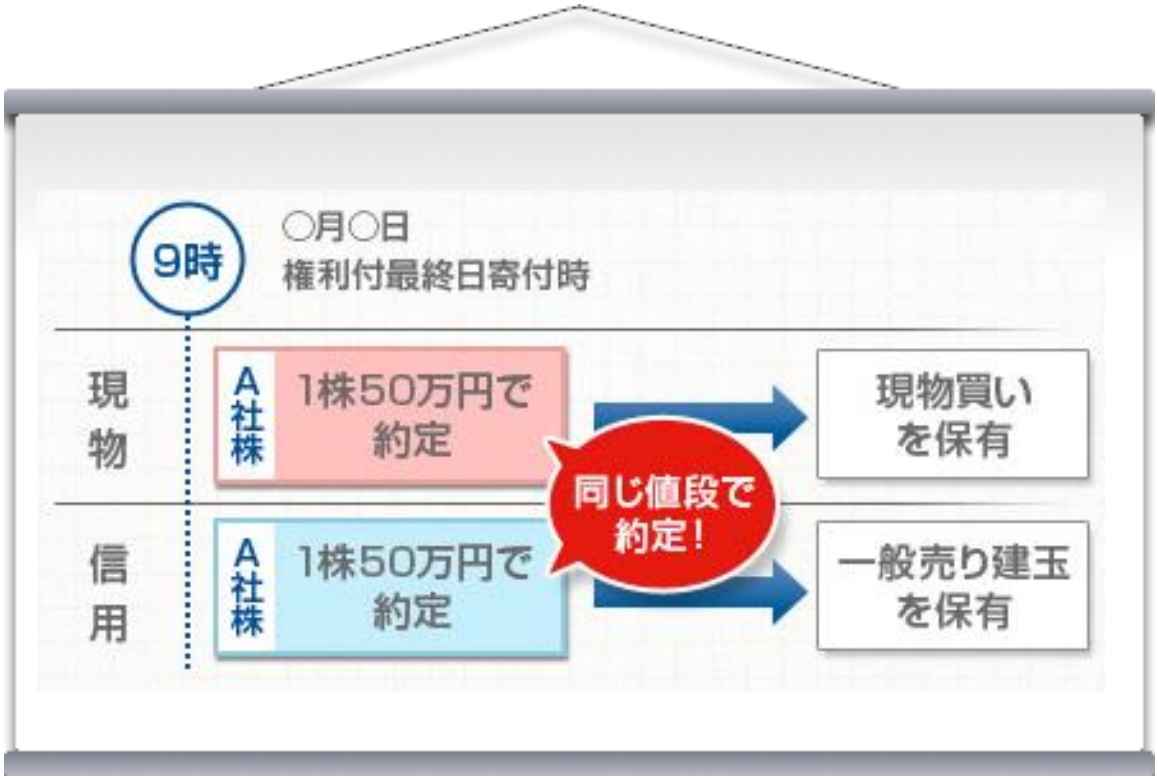


現物買いと一般信用売りを寄付き前（市場が開く9時前に）
同じ株数、「成行」で注文することがポイント！

第1章 優待取り 「実際にやってみよう！（STEP2）」

STEP1　**STEP2**　STEP3　STEP4

すると、取引開始後に寄り付きの板寄せルールにて
現物買いと信用売り注文が同じ値段で約定します。



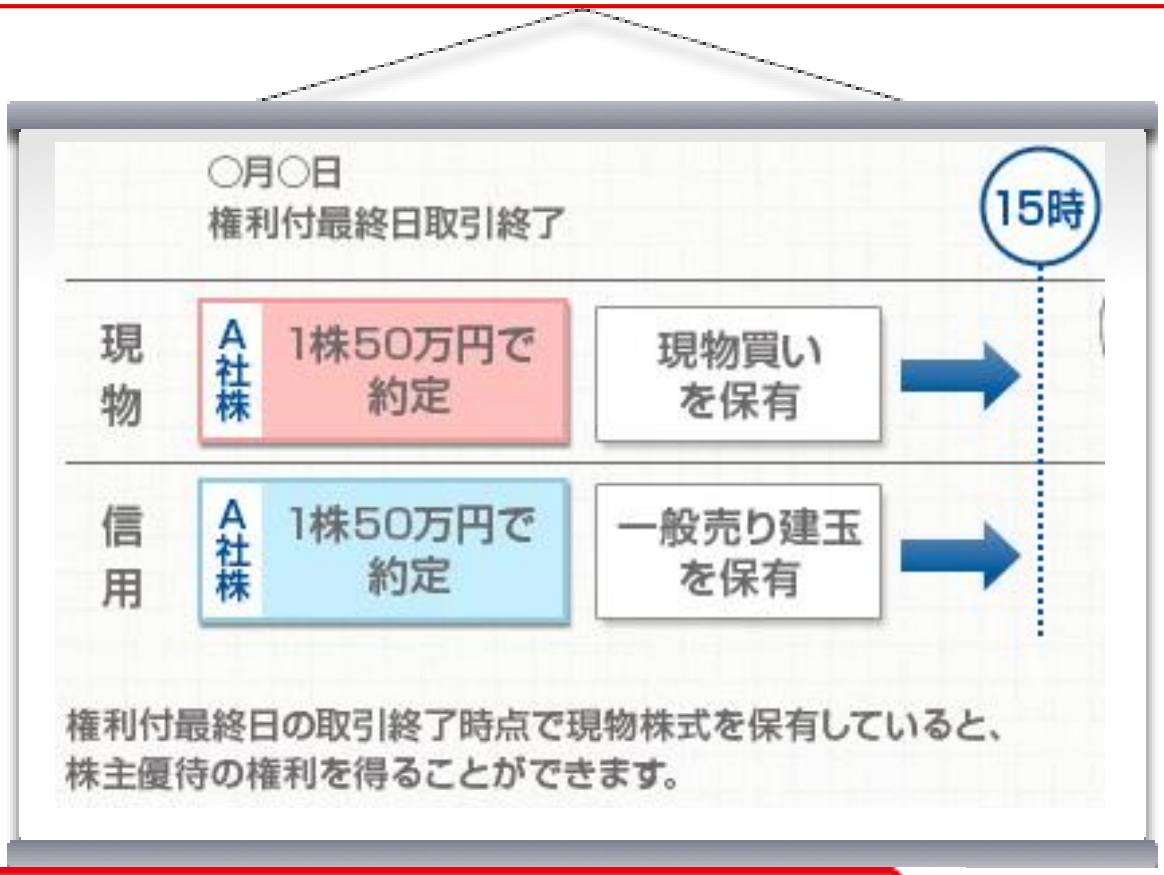
同じ値段で約定するから、リスクもコストも少なく済むんだね。

市場が開く前までに成行で注文を入れるだけでいいのね！時間に追われずに注文をできるし、忙しい主婦の私にでもできそう。
意外とカンタン！

第1章 優待取り「実際にやってみよう！（STEP3）」

STEP1　STEP2　**STEP3**　STEP4

権利付最終日の取引終了まで継続保有し、
優待権利を取得します。



権利付最終日に1日株を**保有している**必要があるんだね。

権利付最終日に注文を行う(※)ことで、コストを**最小限**におさえることができます。

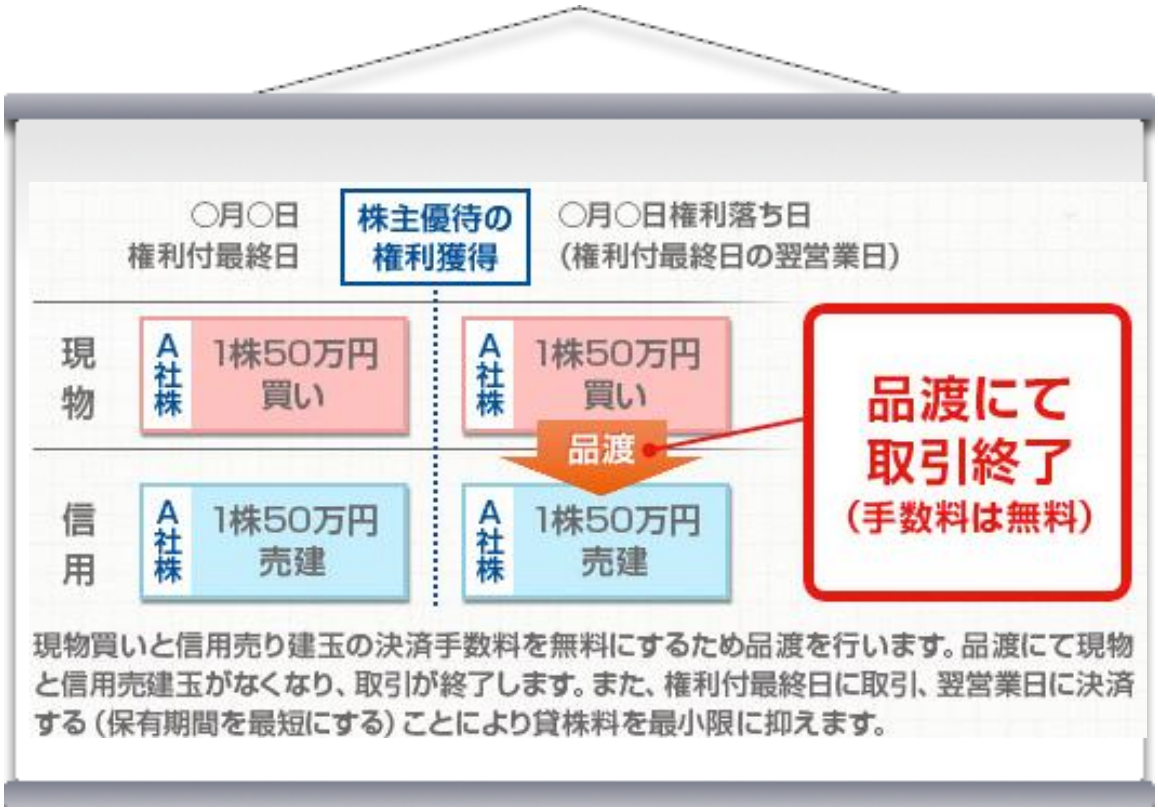
※一般信用では**「売り」の在庫**があります。権利付最終日に注文を行うと**在庫がなくなっている**可能性があります。
詳細はP17をご確認ください。

※権利付最終日の15:15までに品渡をすると、当日の処理となり、権利を確定できなくなりますのでご注意ください。

第1章 優待取り「実際にやってみよう！（STEP4）」

STEP1　STEP2　STEP3　**STEP4**

権利付最終日の翌日（権利落ち日）以降に
現物買いと信用売り建玉を品渡にて決済し、
優待取得のツナギ売りの取引を終了させます。



■**品渡**（現渡）とは・・・
信用の売建玉を、保有している**現物の株式を充当**することにより、信用売建玉と現物株式を決済すること。

■**品受**（現引）とは・・・
信用の買建玉を、買い付けた代金分支払って決済すること。

権利付最終日に取引をすると、2営業日の保有で済むから、**価格の変動リスク**も少ないのね！

第1章 優待取り「実際にやってみよう！」

2.3か月後・・・

株主優待が届いたわ！

たった4STEPで優待を得ることができるなんて！
コツをつかめば本当にカンタンだし、リスクも少ないのね。
今後はもっといろんな銘柄にチャレンジするわ♪

初子さんも優待を楽しむ投資家の仲間入りですね！

優待取りをするときは、
手数料等のコスト＜優待価値

でなくては意味がありません。
おトクに優待を得ることができているか確認を
忘れないでくださいね。

そうね！
確かに簡単だったけど、
手数料等コストが
かかってるのね。
何にどれくらいかかったの？

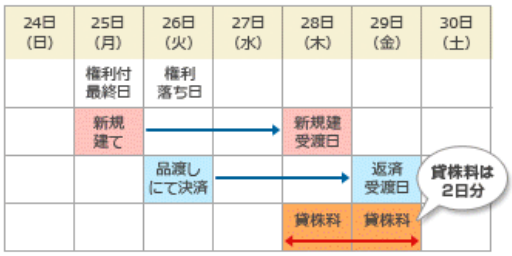
第1章 優待取り「ツナギ売りにかかるコスト」

ツナギ売りについては、
4つのコストがかかります。

1. 現物株式の買い手数料
2. 信用新規売り手数料
3. 貸株料
4. 信用と現物の配当金の差額

初子さんのケースでは・・・

第1章 優待取り「ツナギ売りにかかるコスト」

1	**現物買いの手数料**	270円
		＋
2	**信用取引新規売建の手数料** ※信用取引の手数料は約定代金毎のテーブル設定。 詳細は信用取引手数料をご覧ください。	484円
		＋
3	**一般信用売建（長期）貸株料** 500,000円×1.5%×2日分／365 ※貸株料（長期）：1.5%　貸株料（売短）：3.9% **信用取引の貸株料は新規建受渡日から返済受渡日までの日数分必要です。**  ※貸株料の日数は両端入れにて計算	41円 ＝
合計	※(4) の配当金差額分は考慮していません	795円
4	**信用と現物の配当金受け払いの差額** 権利付最終日の大引け時点でツナギ売り（現物＋信用売建玉）をしている場合、 現物については税金が差し引かれた配当を受取り（配当金の約80%）、 一般信用売建玉については配当落調整金をお支払い（配当金の100%）いただきます。 つまり、配当金の約20%の差額分をご負担いただくことになります。 ※なお特定口座（源泉徴収あり＋配当受入あり）かつ配当金の自動受取（株式比例配分方式）を選択されているお客さまの口座につきましては、 現物株式の配当金は特定口座の譲渡損（配当調整金の支払いを含む）と自動的に損益通算され、翌年1月に税金が還付されます。 ※現物株式の配当金は、源泉税（20.315%）が差し引かれた状態で支払われます。 ※一般信用取引（売り）の場合は配当落調整金として配当の100%をお支払いただきます。 ※制度信用取引（売り）の場合は配当落調整金として配当の84.685%をお支払いただきます。	

株主優待の価値が5,000円だったとすると、
50万円を元手に手数料等コスト**約800円**で
4,200円相当の利益を得ることができたのね！

第2章 信用取引の基礎知識 「ツナギ売りの注意点」

ツナギ売りで株主優待を賢く取得するためには「一般信用取引」で売建てを行うのがポイントです。

「制度信用取引」でも売建てできる銘柄がありますが、
制度信用の場合「逆日歩」という思わぬコストが必要となります。
場合によっては逆日歩のコストだけで数千円～数万円の負担となる可能性がありますので注意が必要です。
逆日歩コストの負担で株主優待のメリットが吹き飛んでしまっては本末転倒です。

ここではツナギ売りの肝となる

「一般信用取引」と「逆日歩」

について理解しましょう。

信用取引には2つ種類がある

制度信用取引	一般信用取引
銘柄や取引期限等を取引所が決めて行われる信用取引で、通常、信用取引といえばこの制度信用のことを指します。 制度信用で売建できる銘柄を「貸借銘柄」と呼びます。貸借銘柄数は約1,700銘柄。	銘柄や取引期限等を証券会社が決めて行われる信用取引で、サービス提供の有無から内容まで各証券会社で異なります。 証券会社が自ら資金や株式を調達し、顧客に株式の貸付や融資を行います。一般信用で売建できない会社が多い中、 カブコムの一般信用で売建できる銘柄は約2,000銘柄と国内証券会社最多です。
制度信用では株式の調達が難しくなると「逆日歩」が発生し、思わぬ負担増も	一般信用では「逆日歩」がかからずコスト増の心配なし

第2章 信用取引の基礎知識 「逆日歩ってなに？」

制度信用取引において、売り手が買い手に支払うコストのことです。
株を売るためには機関投資家などから株式を調達する必要があり、その株の貸し手に支払う調達コストを意味します。特に人気の株主優待を発行している企業の場合、権利付最終日に向けてツナギ売りしたい人が増えてくるので**株式の調達が難しくなる場合**があります。そういう場合に、株式を借りてくるためのコストが上がります。これが制度信用取引で売建する投資家にまで直接的に及ぶものが**「逆日歩」**です。

逆日歩はどれくらいかかるの？

逆日歩は「1株あたり1日につき〇銭」とかかりますの。100株単元の銘柄に1株50銭の逆日歩がついた場合、売建てている投資家は100株で1日につき50円の逆日歩を支払うこととなります。
　また、逆日歩がいくら必要か実際に分かるのは取引を行った**翌営業日**となり、制度信用で売建てた場合、**逆日歩がいくらかかるのか分からない状態**で取引を行うことになります。
逆日歩は状況次第で高額となる場合もあり、株主優待のメリット以上の負担となる可能性もありますので注意が必要です。

だからツナギ売りでは、**逆日歩がかからない一般信用で取引を行う**のね！

一般信用の売建可能銘柄数が　**業界屈指**の
カブコムだからこそ取引の幅も広がります！

第2章 信用取引の基礎知識 「一般信用”売”の在庫」

当社の一般信用（長期・売短）は
人気銘柄であるほど在庫（調達状況）が
少なくなります。権利付最終日が近くなると
在庫が少なくなり、売建てしようとしても
できなかったということにもなりかねません。

「売りたい時に在庫なし」とならないよう、1ヶ月前ぐらいから在庫状況を確認し、毎日の在庫状況をチェックするお客さまもいらっしゃいます。

在庫確認画面で、「数量制限なし」の場合は在庫がたくさんあるという意味です。

「在庫株数量/倍率あり」の場合は在庫が限られているため、19:00～20:00の間に受け付けた一般信用売建注文の中から抽選になります。抽選の場合20:30に結果が表示され、注文が注文依頼中となっていれば当選となります。

ツナギ売りをする場合はさらに現物の買注文を発注し、これにて一般信用売りと現物買いの注文（=ツナギ売り注文）が完了いたします。

抽選が外れた場合は一般信用では売ることができないため、逆日歩リスクを勘案のうえ制度信用での売りと現物買い注文を行うか、現物のみでの買い注文を行うか、または注文をしないという選択肢から判断します。

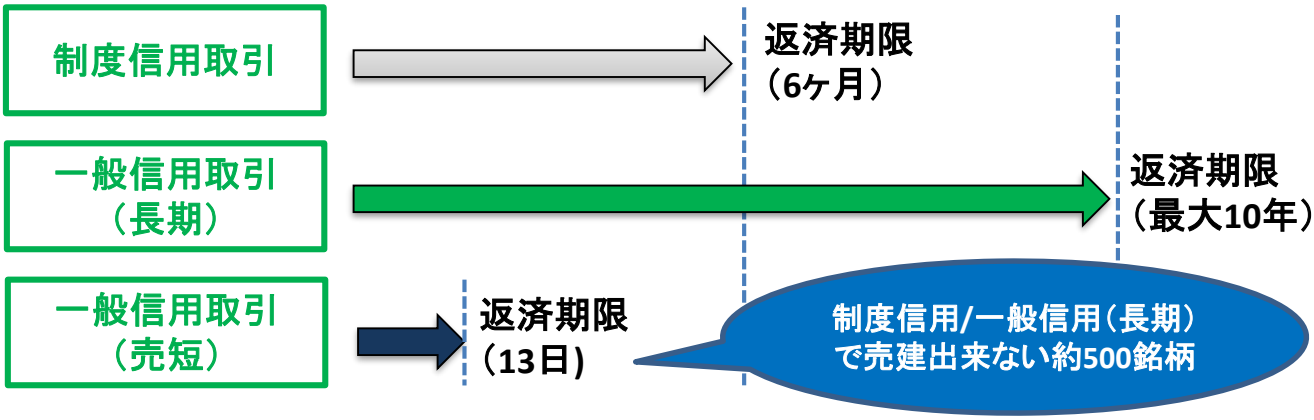
第2章 信用取引の基礎知識 「在庫を確認するには？」

一般信用の在庫は
ログイン後画面 ＞ 信用取引 ＞ 一般信用売建可能銘柄 にて確認します。

※上記操作画面は一例となります。2018年11月17日以降、弁済期間は最長10年に変更されます。

第2章　信用取引の基礎知識「一般信用の長期・売短」

カブドットコム証券の一般信用取引は、返済期限**最大10年**の「一般信用取引（長期）」と**返済期限を限定**することにより通常では株式を調達しにくい銘柄まで**売建**可能とした「一般信用取引（売短）」をご用意しております。



この**長期信用取引（一般信用取引）**では、制度信用銘柄も含めて一部の銘柄を除き**ほとんどの上場銘柄を買い建て可能**とし、また、当社が指定する銘柄の**売建**も行えます。買方金利・貸株料もリーズナブルな水準に設定いたしました。

また、**一般信用取引（売短）**では、返済期限を最長13日に限定することにより、従来制度信用はもちろん一般信用（長期）で売建ができなかった約500**銘柄の売建が可能**です。お客さまそれぞれの投資プランにそった幅広い信用取引が可能となります。

一般信用取引 （長期）	制度信用銘柄も含めて一部の銘柄を除きほとんどの上場銘柄を買い建て可能とし、また、制度信用取引では売建が出来ない当社が指定する銘柄の売建も行えます。買方金利（3.09%）貸株料(1.5%)とリーズナブルな水準に設定いたしました。また、新規上場株式も上場初日から取引（買建）可能です。
一般信用取引 （売短）	売建のみ、返済期限は最長13日（新規建て日の14日目の前営業日）。 対象銘柄は、これまで制度信用はもちろん、一般信用取引（長期）で売建ができなかった銘柄中心に約500銘柄。貸株料率は3.9%

第2章　信用取引の基礎知識「信用取引にかかるコスト」

信用取引には、様々なコストがかかります。
正しくご理解いただいた上で、取引を行う必要があります。

コスト	意味	買建		売建	
		制度信用	一般信用	制度信用	一般信用
金利	証券会社から借りたお金に対して利息が発生します。取引の約定金額に対して発生する金利です。	☹	☹	☺	☺
貸株料	証券会社から株を借りるために支払う費用です。	☺	☺	☹	☹
逆日歩	売り方が買い方に支払う費用です。市場で貸借される株式が不足すると発生します。	☺ 受取れる場合がある。	☹ 一般信用では発生しないため受け取れない。	☹ 支払う場合がある。	☺ 一般信用では発生しない。
事務管理費	信用新規建の約定日から１ヶ月を経過するごとに建玉毎に対して管理費が発生します。	☹	☹	☹	☹
名義書換料	買い建玉が権利確定日をまたいで建てられている場合に必要となります。	☹	☹	☺	☺
配当金相当額	建玉が権利確定日をまたいで建てられている場合、配当金支払い時期に、税金が源泉徴収された後の金額の授受が必要です。	☺	☺	☹	☹
取引手数料	買建、売建をする際、返済をする際に発生します。	☹ ※品受け・品渡しを行う際にはかかりません。			

☺・・・コストがかからない。　☹・・・コストがかかる。

第3章　当社の画面で確認！「品渡をするには？」

信用取引は資金や株式を借りて取引し、反対売買で返済する方法が一般的です。
反対売買のほかに、現物株式の相当額を支払いして株式を引き取ることで決済する「品受（現引）」、保有する株式を引き渡して決済する「品渡（現渡）」の2つ方法があります。
ツナギ売りで優待を取得する際に利用するのは「品渡」です。
ここでは操作方法をご説明します。

※品受の方法も基本的には同じ流れです。

第3章　当社の画面で確認！「株主優待の調べ方」

投資金額や優待のカテゴリからご自身に合った株主優待を検索することができます。

STEP 1

STEP 2

STEP 3

ご注意・ご案内

＜現物株式取引（プチ株®含む）に関するご注意事項＞
・株式は、元本や利益を保証するものではありません。株式は、金利の変動、為替の変動等により価格が変動するため、投資元本を割り込むおそれがあります。
・現物株式の手数料の概要は次のとおりです。
＜現物株式＞最大3,690円（税抜）（お電話での注文は、自動音声応答：100円（税抜）、オペレーター経由：2,000円（税抜）が別途加算）
＜プチ株®＞約定金額×0.5%（最低手数料48円）（税抜）（お電話での注文は、オペレーター経由：2,000円（税抜）が別途加算）
＜信用取引に関するご注意事項＞
・信用取引の対象となる株式（ETF、ETN、REIT等を含む）は、元本や利益を保証するものではありません。株式は、金利の変動、為替の変動等により価格が変動するため、投資元本を割り込むおそれがあります。
・信用取引をおこなうには、売買代金の30%以上かつ30万円以上の保証金の差し入れが必要であり、保証金の最大約3.3倍のお取引が可能です。信用取引は、差し入れた保証金を上回る金額の取引が出来るため、損失の額が差し入れた保証金を上回る（元本超過損）おそれがあります。
・信用取引に際して、売買手数料・信用管理費・名義書換料をお支払いいただくほか、買付けの場合は買付代金に対する金利を、売付の場合は売付株式等に対する貸株料及び逆日歩（品貸料）をお支払いいただきます。信用取引の手数料等の概要は次のとおりです。
＜手数料＞最大1,200円（税抜）　＜買方金利＞最大3.09%　＜売方金利＞0%　＜貸株料＞最大3.9%
・信用取引には取引期限があり、取引期限を超えてのお取引はできず、所定の期日までに反対売買がなされない時は、予め定められた方法により決済されますが、上場廃止、株式併合、株式分割、権利処理等により、返済期限が前倒しになる場合があります。信用取引の委託保証金率および代用有価証券の掛目は当社独自の判断によって変更する場合があります。委託保証金率および代用有価証券の掛目は当社独自の判断によって変更することがあります。また、上場廃止、株式併合、株式分割、権利処理等により、返済期限（期日）が前倒しになる場合があります。詳細は、当社ホームページの信用取引ルールのご案内ページ（https://kabu.com/item/shinyo/rule.html）をご確認ください。
・制度信用取引と一般信用取引（長期、売短®）では、返済の期限等について異なる制約があります。合併や株式分割等の事象が発生した場合や、株式の調達が困難となった場合等に返済期限を設定することがあります。一般信用取引（長期、売短®）の建玉について株式の調達が困難となった場合等は、一定の催告期間を設定した上で、当社が定める期日に変更する場合がありますが、緊急かつやむを得ない事由がある場合には、催告期間を置かずに期日を変更します。
・一般信用「売」はすべての上場銘柄に対応しているものではありません。一般信用（長期、売短®）売建可能銘柄は日々、貸付有価証券の調達状況等により銘柄及び株数に変更がございます。最新の銘柄情報は、当社ホームページの「一般信用（長期、売短®）売建可能銘柄一覧」をご参照ください。
・権利落日の取引所基準価格は、前日終値から一株当たりの予想配当額分だけ理論上値下がりします。
・権利付最終日の大引け時点で現物買いおよび信用売建玉をしている場合、現物については税金が差し引かれた配当を受け取り（配当金の約80%）、一般信用売建玉については配当調整金をお支払い（配当金の100%）いただきます。つきましては、配当金の約20%の差額分をご負担いただくことになりますので、予めご注意ください。

◆当資料は、資産運用の参考となる情報提供や、当社サービスや商品のご紹介/勧誘を目的としています。
◆優待内容は各企業の判断により変更・中止となる場合がございます。お取引に際しましては必ず当該企業のホームページ等で内容をご確認ください。
◆当資料は平成30年11月16日現在の情報に基づき記載しておりますが、情報の正確性・完全性について保証するものではありません。また、法令・制度等の内容は変更または廃止される可能性があります。
◆詳細および最新情報は当社ホームページ（https://kabu.com/ ）にてご確認ください。
◆ご投資にかかる手数料等およびリスクについてはこちら
→https://kabu.com/company/pressrelease/info/escapeclause.html ）

◆ご意見・苦情について（当社以外の窓口）
特定非営利活動法人　証券・金融商品あっせん相談センター
電話：0120－64－5005

カブドットコム証券株式会社
金融商品取引業者登録：関東財務局長（金商）第61号
銀行代理業許可：関東財務局長（銀代）第8号
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 金融先物取引業協会